

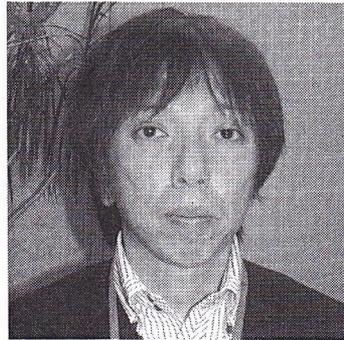
国のガイドラインに基づいた東北初の軽自動車による改造電気自動車(EV)を完成させ、注目を集めているが、研究会発足のきっかけは。

「2年前からEV車やハイブリッド車(HV)が普及段階に入り、資本力に劣る地元の自動車整備業者や自動車部品製造業者などは技術面で対応が遅れているため先行きに危機感を持っていた。そこで地域産業を活性化させ、同時に環境負担の少ない地域社会をつくっていくために、EV研究を通して、ビジネスの可能性を追求していくことにした。そこで考えたのが、マイドイン秋田のコンバートEVキット及びEVパ

ビジネスナウ トツブに聞く

あきたEV研究会 (秋田市)

会長 鎌田 学さん



1ツの製造販売。秋田県企業活性化センターに協力を仰ぎ、今年7月に県

中古車を改造した電気自動車を完成

ガイドラインに基づいた軽の改造EVは東北初

内の16社3団体が参加して研究会を発足させた。そして10月に県外の改造

車普及協議会による製作ガイドラインに合わせて整備した。モーターは出力

つとしてコンバートEVキットを開発し、コンバートEVキットメーカーを立

これらの課題を克服して実用車に近づけた。今後の抱負は。

EV専門家の指導を受けながら中古のガソリン車を改造しEVを完成させた。改造費用は約120万円、バッテリー費用は別途約60万円掛かった。主な工程は、中古車からエンジンやガソリンタンク、マフラーを取り除き、代わりに電動モーターを積み込み、電気配線した後バッテリーケースを取り付けるといふもの。改造に当たっては、電気自動

7・5kW、バッテリーは13・4Vのリチウムバッテリー10個を搭載した。ただし、改造は簡単ではなく特にモーターを取り付けるには工夫が必要だった。完成したEVは家庭で充電でき、1晩充電すれば50〜60km走行できる。停車の場合、蓄電池としても利用できる。

今後の動きは。「EV産業のまち秋田の創造」が目標。その1

「EVの魅力はガソリン車に比べコストが大幅に安いこと。ただし走行距離に限度があるため、近場の買い物などに活用する乗り物として普及していければと思っている。車の整備工場やEVに改造したり、将来はEVキットが電器店で販売されるようになるのではないかと考えている。コンバートEVキットメーカーとなり、またEVパーツを大手自動車メーカーから受託生産できるようにすれば、県内産業が活性化し、雇用が増え、人口減にも歯止めがかかるはず。さらに

外貨も稼げる。同時に地球の空気汚染が緩和され、従来エンジンの中古車が見直され、資源循環の効率もよくなるはず。この事業を成功させ、笑顔あふれる豊かで住みよい秋田の実現の一助になればと思っている。」



▲中古車をEVに改造する会員の皆さん

(株)ドラグーン代表取締役